遠藤周作『侍』展

“人生の同伴者”に出会うとき

＊会　　期：2014年1月18日（土）～3月23日（日）
＊休 館 日：毎週月曜日、毎月第２木曜日
＊会　　場：町田市民文学館ことばらんど ２階展示室
＊観覧時間：午前10時～午後５時　※金曜日は午後８時まで
＊観 覧 料：一般400円、大学生・65歳以上200円、高校生以下無料
※1月18日（土）、2月23日（日）、3月23日（日）は観覧無料

遠藤周作が長年にわたり追究した「日本人におけるキリスト教受容」という文学的主題の、ひとつの到達点である『侍』を中心に、人々の苦しみや哀しみに寄り添う存在である“同伴者”を描いた作品世界をご紹介します。

『侍』は、伊達政宗の命を受け慶長遣欧使節団の副使としてヨーロッパに渡航し、スペインで洗礼を受けた支倉常長（はせくらつねなが）をモデルとしていますが、遠藤自身の受洗、渡欧経験が反映された作品です。

本展では、約200点の資料によって史実とフィクションの狭間に込められた思いと、“同伴者”の存在を見出すまでの道筋をひも解いていきます。

会期中は、斎藤由香氏（エッセイスト）の講演会や石坂浩二氏（俳優）による朗読会等、様々なイベントを企画しています。詳細は、当館ホームページまたは展覧会チラシをご覧下さい。

遠藤文学を通して、宗教の枠を超え誰もが共感できる“人生の同伴者”の存在を、一人一人が自らの人生に重ね合わせて感じていただける機会になれば幸いです。

問い合わせ　町田市民文学館ことばらんど（原町田4-16-17　☎739-3420）

自由民権資料館企画展　入館無料

第2回企画展「小野路村展」

・会　　期：2014年2月8日（土）～3月30日（日）
・休 館 日：毎週月曜日（月曜が祝日の場合は翌日）
・会　　場：自由民権資料館 企画展示室
・開館時間：午前9時～午後4時30分

自由民権資料館では、これまで自由民権運動関係の企画展とともに、地域の歴史を紹介する展示もあわせて企画してきました。そのような地域の歴史を知るシリーズとして、今回は旧小野路村を対象に、縄文から現在に至るまでの小野路の歴史を出土品・古文書・地図・写真等とともにふりかえります。

また、これまで未公開であった角屋の史料も初公開します。角屋は、現在の小野路里山交流館の場所にあり、江戸時代から明治時代にかけて旅籠屋や質屋・荒物屋などを営んでいました。この家には約2万点の歴史資料が残されています。

今回の展示によって、これまで明らかにされてきた小野路村の歴史に、新たな1ページを加えられれば幸いです。

▲明治19（1886）年小野路村縮図

▲昭和期の小野路

▲鎖着込み

◆◆◆ 関連イベント ◆◆◆

●ギャラリートーク
（毎週土曜日・全8回）
●講演会
●フィールドワーク

上記のイベントを企画しています。詳細は自由民権資料館までお問い合わせ下さい。また、「広報まちだ」1月21日号にも掲載予定です。

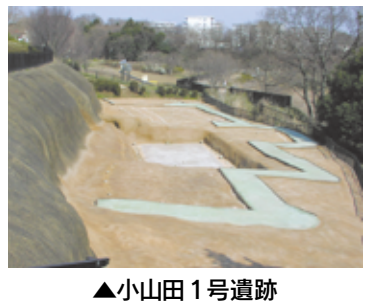
問い合わせ　自由民権資料館（野津田町897　☎734-4508）

連載

町田市の文化財をご存知ですか

第13回　小山田1号遺跡（都指定史跡）

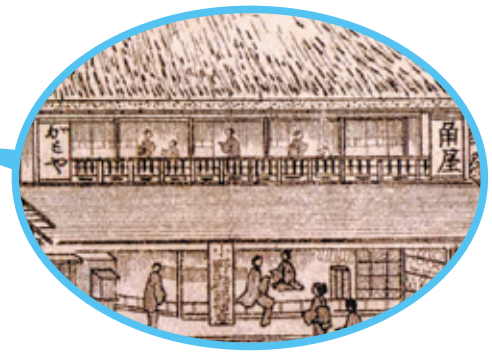
小山田遺跡群は、小山田桜台団地造成にともなって1970～1972年、1978～1982年に発掘調査が行われました。このうち遺跡群の最も北に位置する1号遺跡からは鎌倉～室町時代の武士の館と推定される大型竪穴状遺構や掘立柱建物跡、お墓である地下式壙が発見されました。特に大型竪穴状遺構は、広さ12×6m、深さ1mの特大サイズで集会所または倉庫と考えられます。現在は、ガラス繊維と樹脂セメントの皮膜で遺跡全体が覆われ、発掘調査時の臨場感が再現されています。


▲小山田１号遺跡

所　在：小山田桜台2-16-6
見　学：随時、無料
案　内：町田バスセンターより小山田桜台行きバスで「桜台二丁目」下車、徒歩5分。「こぶし公園」内にあります。※駐車場なし

町田市歴史の一コマ

いにしえの小野路宿

今年9月、小野路町に小野路宿里山交流館がオープンしました。その場所には、角屋という旅籠屋（現在の旅館）兼質屋・荒物屋（現在の日用雑貨店）を営むとともに、江戸時代には村の行政一般を担っていた村役人が住んでいました。江戸時代、小野路は大山街道の宿場となり、字宿（あざしゅく）と呼ばれた地域には、いくつかの宿屋や商店、民家が集まり、多くの村人が暮らし、にぎわいを見せていました。そんな様子がわかる史料が、現在もいくつか残されています。角屋の銅版画はそのひとつです。これがいつ作られたのかは、はっきりしませんが、画中に小野路郵便局の看板があることから、1875（明治8）年以降の様子を描いていると思われます（小野路郵便局は1937（昭和12）年4月大蔵へ移転）。画面下部に描かれている道と川は、大山街道と小野路川で、人力車や荷を運ぶ馬などは宿場の雰囲気を感じさせます。また、通常平屋の民家が多い中、二階屋の造りは、当時の旅籠屋の様子を想像させます。

▲角屋銅版画